

城原川の河川整備についての 佐賀県の方角性

平成17年6月6日(月)

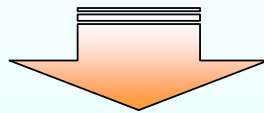
佐賀県知事 古川 康

城原川



記者会見概要 (これまで議論してきた治水対策の結論)

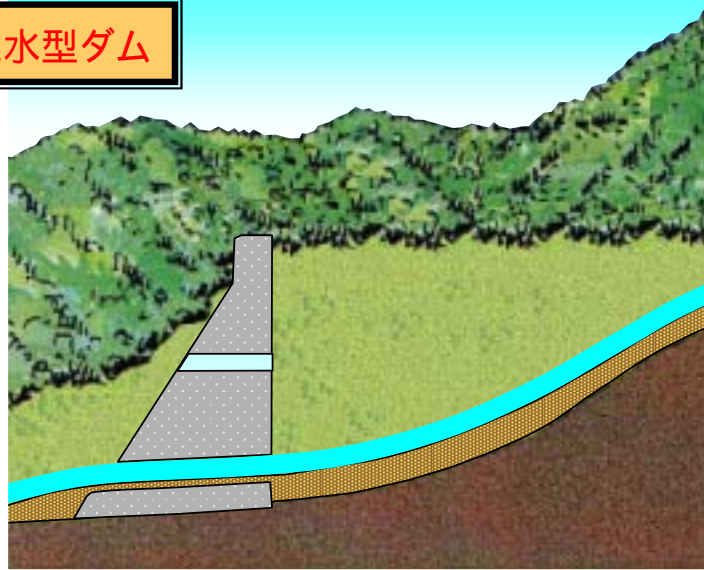
昭和28年洪水相当の降雨に対して安全な河川整備をすることを前提に、堤防の強化と毎秒330m³の河道改修とあわせて、
さらなる治水対策が必要



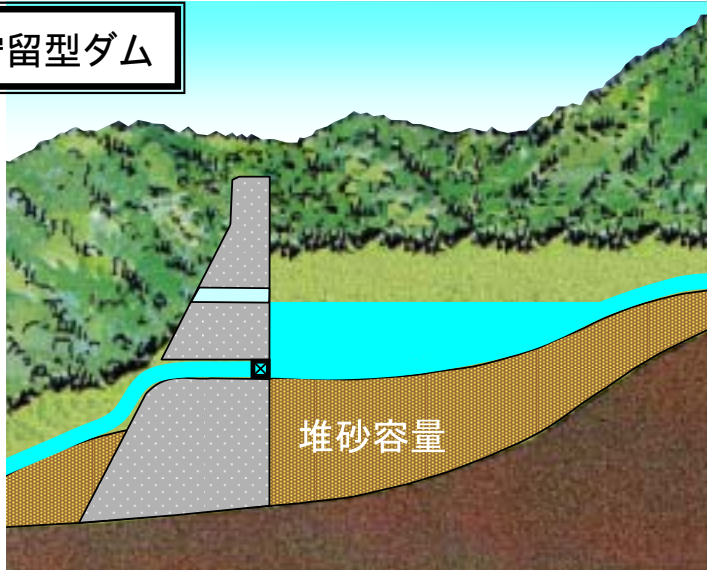
城原川における河川整備の手法については、
「流水型ダム」とでも言うべき方法をとっていただくよう、河川管理者である国に申し入れることとしました。
この**「流水型ダム」**は、洪水のとき以外はダムがない状態と同じように上流の土砂や水が下流に流れ、洪水のときだけ水を貯めるものです。

貯留型ダム・治水単独ダムと流水型ダムの比較

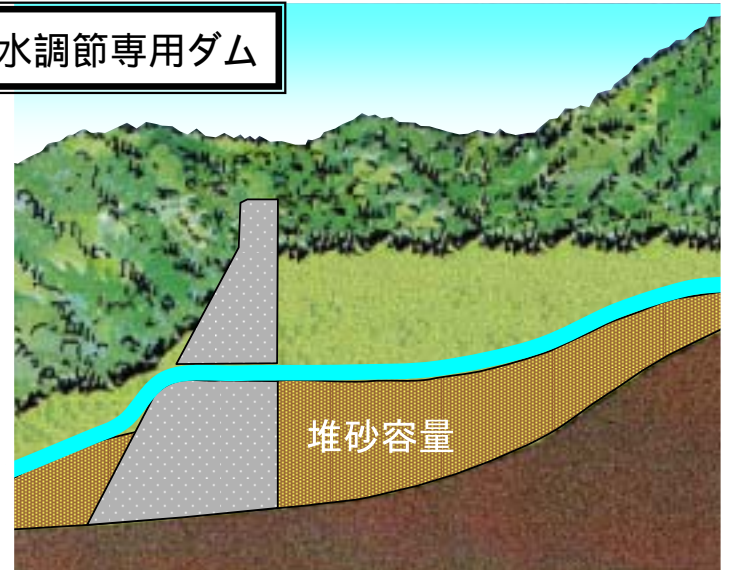
流水型ダム



貯留型ダム



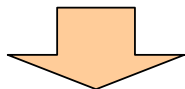
洪水調節専用ダム



流水型ダムについて

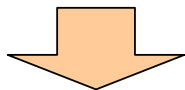
これまでのダムについての指摘

- ・土砂が溜まって海に流れない。
- ・有明海の環境を変化させるのではないか。
- ・水質が変化するのではないか。

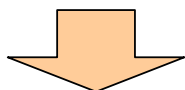


流水型ダム《河床に近いところから放流》

- ・ダム湖に水が溜まったり、土砂の堆積するのを最小限に抑える。
[土砂がきちんと流れ下る。水質の変化が避けられる。]

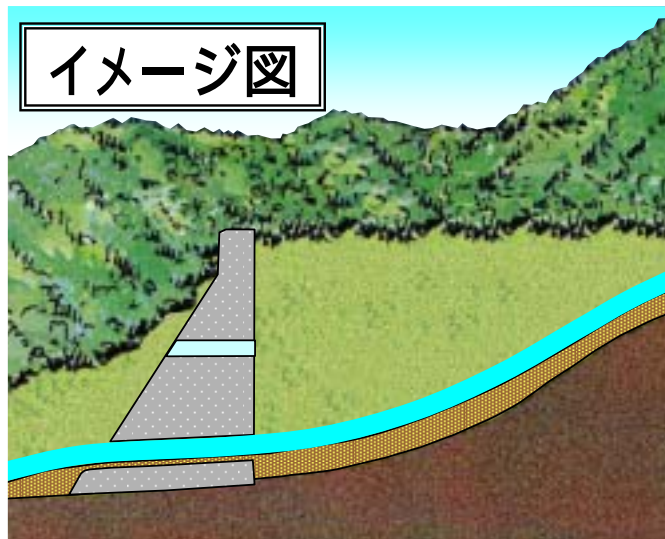


流水型ダムは環境と治水の両面で両立させることのできるダム



今後、技術的な検討が必要

イメージ図



技術的な課題（転石対策）

放流量と放流口の大きさ

「流水型ダム」と同じような型のダム

熊本県：立野ダム（直轄）

流入量2,800m³/s 放流量2,200m³/s 放流口 5m × 5m × 3門

城原川ダム

流入量580m³/s 放流量230m³/s 放流口 立野ダムより小さなものになる



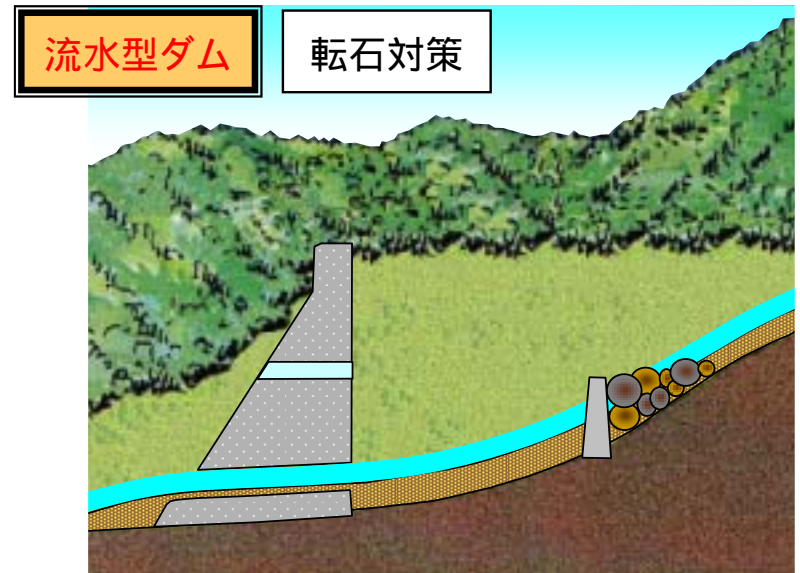
城原川ダムの技術的課題

大きな岩が放流口を塞いだりする危険性がある。



転石対策の検討

一例をあげたが、他にどのような転石対策があるのか、また技術的に可能かどうか検討が必要。



経緯

平成15年4月 知事就任



平成15年7月7日 城原川河川整備について国から説明



(内容について議論したい。)

城原川流域委員会



(平成15年11月～平成16年11月までの13回開催)

流域委員会からの提案

- ・城原川は安全な川ではなく、何らかの治水対策が必要
- ・治水対策としてはダムは有効



(流域の首長から「ダムによらない治水対策の実現性」について議論したい。)

城原川首長会議の設置

(平成16年12月8日～平成17年5月30日までの11回開催)

城原川首長会議 (H16.12.8 ~ H17.5.30 : 11回開催)

共通認識

- ・城原川の治水対策の目標とする基本高水のピーク流量を毎秒690m³とすること。
- ・堤防の強化及び毎秒330m³の河道改修を早急に行うこと。
- ・そして、それ以上のさらなる治水対策が必要である。

【いずれの治水対策も地域の住民の方の理解が必要で、ご迷惑をおかけする。】

ダムによらない案の検討は次の5案

- ・ケース1 : 遊水地 + 河道 (330m³ / s)
- ・ケース3 : 引堤 (コスト最小の引堤)
- ・ケース2 : 規模縮小遊水地 + 河道 (550m³ / s)
- ・ケース2a : 規模縮小遊水地 + 河道 (330m³ / s) + 洪水リスク受忍
- ・ケース3a : 引堤 (水辺環境が変わらない引堤)

洪水リスクの受忍

- ・床下浸水では治まらない。
- ・地域の理解を得るのが難しい。

・保険制度の創設が難しい。

・氾濫区域が広く、適用できない。

・特に長い河川区間を有する神埼町、千代田町の両町長がともに容認できるとされた案はありませんでした。

城原川首長会議（ダム案を含めた議論）

ダムによる 案の検討

- ・ ダム(洪水調節 + 不特定容量) + 河道($330 \text{ m}^3 / \text{s}$)
不特定容量 : 約790万 m^3 (確保可能量) 約200万 m^3 (下流水利用想定)
- ・ ダム(洪水調節のみ) + 河道($330 \text{ m}^3 / \text{s}$)

コスト

- ・ 一番安い案 : 洪水調節専用のダム(約760億円)
- ・ 一番高い案 : 大幅引堤(約1,600億円)

期間

- ・ ダム案 : 約20年
- ・ ダムによらない案 : 約85 ~ 約100年 (一定の仮定のもとでの算出)

社会・環境問題

- ・ 水没予定地やダム直下の住民の方々への景観的なまたは心理的な影響
- ・ 土砂が有明海に流れない、水質も変わってしまうというような指摘

治水対策の方向性

流域住民の安心なくらしを短期間で実現するには。



ダム手法によらざるを得ない。
しかし、環境と共生できるダムが必要。



【県の提案】

流水型ダム

- ・水が溜まらない。
- ・土砂も流れる。



技術的な課題の検討が必要

不特定用水について

- ・ 城原川下流で水が流れていない。
- ・ 沿川住民から水を流して欲しいという意見がある。



- ・ まずは流域の関係者間で取水の調整が必要。



- ・ 不特定用水の必要性の検討。



- ・ 具体的にダムの内容を詰めていく中で併せて検討。



【ただし】 「環境保全を前提としたダム」という考え方を基本。

【その上で】 不特定として必要な水量確保の可能性検討。